

令和7年度 第4回佐久市社会教育委員会議録

令和7年9月25日 午前10時～12時

於 佐久市役所南棟3階大会議室

1 開会 依田社会教育副委員長

2 あいさつ

- ・原社会教育委員長
- ・神津教育長

3 市長講話

(資料:「総合文化会館建設の賛否に係る住民投票の経過」、資料1～3)

資料に沿って総合文化会館建設の賛否に係る住民投票の経過について思いを話していただいた。

〈質疑応答〉

Q1、現在、パブリックコメントという仕組みがあるが、パブリックコメントは出した意見に対して回答をしてもらったらそこで終了となり、その後の展開や議論の場が無い。わだかまりを解消した方が市民の成熟につながるのではないか。

A1、現時点では認識通りパブリックコメントのその後が無い状況だが、今後検討させていただく。

Q2、話を聞いて説明責任の重要性を再確認できた。社会教育委員の活動でコミュニティ・スクールやこども食堂関連のアンケートを取ったこともあるが、還元ができていなかった。社会教育委員の目指すところを地域と共有していくこうと再認識し、大変参考になった。

A2、今後もぜひ頑張ってほしい。

Q3、中央図書館の立替計画が進んでいるが、居心地の良い素敵なおしゃれな図書館を望む。

A3、中央図書館の立替については、今後、教育委員会主体で進めていくことになるが、パブリックコメントやワークショップ等意見を出せる場にぜひ参加してほしい。

4 その他

(1) 社会教育委員会議の今後の計画について

- 社会教育委員会議の令和8年5月頃までのスケジュールと会議内容案について説明（資料①）
- 社会教育委員だより「そよかぜ」について、委員の中から編集メンバーを決め、発行時期や原稿担当を計画してもらうはどうかと事務局で提案。委員から「編集メンバーを決めるのではなくて、定例会議の会議事項としてそよかぜの計画を入れ、全員で計画するはどうか」と意見が出された。意見を踏まえ事務局で検討していく。

(2) 生涯学習に関するアンケート途中経過

- 「佐久市子どもまつり」で実施したアンケートの集計を報告（資料②）
- 「第23回わがまち佐久・市民講座 佐久の先人講演会」、「図書館講座」、「創鍊の森市民大学」で同様のアンケートを行い、最終的に集計した結果を会議で共有し、社会教育委員だより等社会教育委員周知活動に活かしていく予定。

5 グループワーク

社会教育委員目線での社会教育に関する課題についてご意見いただき、今後の教育振興基本計画策定に活かすため2グループに分かれてグループワークを実施。日頃委員が社会で感じる課題について、幅広く発言いただいた。

〈グループA〉

① 子育て世代と地域の関係

- ・以前は地域全体で子どもを見守る実感があったが、現在は子育て世代以外の高齢者世帯等が学校や子どもとの関りが少なくなり、子育て世代とそれ以外の地域との間に溝を感じる。
- ・見守り隊がなくても、以前は地域が子どもをよく見ていた。

② 多世代交流の課題と活性化

- ・多世代交流が不足する理由として、「多世代交流を必要としておらず、自身の世代の中だけでことが足りている」場合と、「多世代交流を望んでいるが、地区の役員等自身の活動に消極的だったり、情報が知られていない」場合の二つがある。
- ・活動内容を前年踏襲で変えず、やっている人が楽しむ余裕がない現状を改める必要がある。
- ・活動内容を知れば必要性を感じて若い世代が参加することもあるため、周知努力が必要。

③ 意見募集への参加促進

- ・パブリックコメントや説明会に興味のある人が少なく、いつも同じ人が参加している状況。興味を持ってもらうための工夫が必要。
- ・新図書館建設について、大人だけで議論せず、実際に使用するであろう子どもたちに意見を求め、説明をしていくことを提案。

④ 他自治体の事例

- ・大桑村の事例では、社会教育委員主催のイベントの中で同時に村全般の意見交換会を実施し、そこで出された意見が村で実際に反映されることがある。
- ・この意見交換会は口コミで参加者が増え、参加者も多世代にわたっている。

〈グループ B〉

① 学校部活動の地域移行

- ・教員の働き方改革や専門外指導、指導者不足が深刻。
- ・指導者側が毎日の活動イメージ、日程・時間・場所の拘束、責任を懸念し、手が上がりにくい。
- ・活動場所は原則校外だが、吹奏楽部など器具持ち出し困難な部があり、方法を模索中。

② 地域活動と学校の変化

- ・子ども祭りやプルーンウォークなどに若い世代の家族が多く参加し、

楽しんでいる。

- ・校長交代で雰囲気が変わり、子どもに合わせた柔軟なやり方が見られるなど、変化が表れている。

③ 公共施設の利用促進

- ・コスモホールが利用促進を掲げつつ、施設利用料が非常に高額（例：2日間で 55 万円）である点に疑問。ヒップホップダンスの合同発表会など、利用者を増やすためのイベント機会の提供を提案。

④ 子どもの貧困・地域支援

- ・教員経験から家庭環境による格差を痛感し、子ども食堂の必要性を実感。高齢者も訪れるため、その存在意義の理解が重要。

⑤ 今後の政策と委員の関わり

- ・住民の課題が多様化しており、従来の「縦割り」政策では対応困難。子育てと CS（コミュニティ・スクール）の今後のあり方を検討し、社会教育委員の関わり方を今後考える必要がある。

6 閉会 依田社会教育副委員長